

## 学生大使 実施報告書

氏名：笹 佳蓮

学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部・グローバル・スタディーズコース・2年

派遣先大学：新モンゴル学園

派遣期間：2024年2月26日～2024年3月11日

### 1 日本語教室での活動内容

新モンゴル学園は、小学校、中学校、高校、高専、大学に分かれています。私は、その中の高校1年生のクラスで日本語の授業を担当させていただきました。私が授業テーマにしたのは、「日本の高校生活について」です。私が卒業した高校は、他の高校にはなかなかない特徴があったり、モンゴルから留学生が来ていたりなど、話のテーマとして面白いと思ったので、新モンゴルの生徒たちにも伝えたいと思って、このテーマにしました。授業をするにあたってスライドを用意し、それを日本人のコーディネーターの先生にチェックしてもらって、アドバイスをいただき、修正しました。元々私の高校の話をして、それにまつわるクイズをして終わる予定でしたが、生徒たちにも話し合いをしてもらって、出た意見を発表してもらおうというステップも追加しました。高校の授業は1コマ40分で、私はそれを4コマ分やらせていただきました。1回目はかなり時間が余ってしまって、漢字を書かせてみたり、話し合いの時間を長くしたりしてなんとか40分まで引き延ばしました。2回目以降はその反省を生かした、時間配分を見ながらゆっくり授業を進め、うまくできました。また、クイズに正解した生徒に日本のお菓子を配ったらとても喜んでくれて、嬉しかったです。

### 2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外では、「日本語祭り」という文化祭のようなイベントに参加させていただきました。高専と高校でそれぞれ日本語祭りがあって、高専の方では、1年生のクラスによる劇の練習を指導したり、本番の劇の発表を採点したりしました。劇は1クラスで1つ発表することになっていて、「桃太郎」、「一寸法師」、「カチカチ山」などの昔話を題材にしていました。練習では、イントネーションを指導したり、どうしたらそのキャラクターの話し方に近づけられるか、どんな衣装を着れば良いかなどを話し合ったりしました。本番は厳しく点数をつけなければなりませんでした。全クラスに満点をあげたいくらいみんな上手で、見ていてとても楽しかったです。高校の日本語祭りはそれぞれの得意分野で日本文化の紹介ブースを出しました。私はけん玉が好きで、検定を受けたこともあったので、けん玉ブースの担当になりました。けん玉検定で実際に使われる賞状を印刷してもらって、体験に来てくれた生徒で10級以上の技ができた人には賞状を配ることにしました。私は6級を持っているのですが、5級や4級の技まで合格した生徒もいて、驚きました。けん玉が足りなくて待ち時間ができるくらい多くの生徒が興味を持ってくれて、とても嬉しかったです。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

私の参加目標は、現地の生徒たちに日本や日本語をもっと好きになってもらうことでした。またその他に、具体的な目標として「百人一首」を教えたいと思っていました。現地の生徒たちに日本を好きになってもらうために、授業を少しでも楽しくしようと努力しました。私が一方的に話すだけでなく、生徒同士に日本語で会話させたり、景品付きでクイズを出題したりなど、日本の高校について楽しく学べるように工夫しました。授業では、生徒たちがとても積極的にリアクションや質問をしてくれて、「楽しかった」、「面白かった」という感想も聞こえてきたので、良かったと思います。また、自分の授業だけでなく、他の学生隊士の授業や、新モンゴルの日本語の先生による授業も見学したり、サポートしたりしました。自分で授業をするよりも、サポートの方が一人一人を見回って個別に教えることができるので、この時はよりわかりやすい教え方を意識しました。私は塾でアルバイトをしているので、その経験を活かして、やさしい日本語を使う、それでも伝わらなかつたら英語も混ぜる、できたらたくさん褒めるなどのことを実践しました。みんな一生懸命理解しようとしてくれて、問題が解決したら「ありがとうございます」と日本語で言ってくれて、嬉しかったです。

### 4 プログラムに参加した感想

モンゴルに行く前は、現地での生活の仕方から学校での活動まで、何もかもイメージできていなくて不安でした。でも、コーディネーターの先生、ホストファミリー、新モンゴル学園の先生や生徒たち、そして他の学生大使たちのおかげで、本当に充実した2週間になりました。新モンゴル学園では、私たちが授業をしたり日本語を教えるのを手伝ったりするだけでなく、授業を見学したり部活動を見学したりなど、逆にこっちが学べることもたくさんありました。私は将来英語の先生になりたいので、小学校と高校の英語の授業を見学しました。小学校からほとんど英語のみで授業が行われていて、生徒同士が英語で教え合う姿も見受けられて、教育レベルの高さを感じました。また、他の学生大使による小学生への折り紙、あやとりの授業にも参加することができました。小学生は日本語を勉強していないので、英語での授業でした。モンゴルに来て英語で授業ができるとは思っていなかったのも、貴重な体験ができて嬉しかったです。このように、ただ楽しいだけではなく、自分の将来につながることをたくさん経験して学ぶことができました。授業を終えた時の達成感や、自分が練習を手伝った劇がうまく発表できたのを見た時の喜びなど、学生大使、新モンゴルでなければ経験できない感情をたくさん味わいました。参加して本当に良かったと思います。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の派遣では、新モンゴル学園の高校生に授業をして、リアクションの良い生徒たちのおかげでとても充実した楽しい授業になりました。ですが、日本の高校で同じように授業を進めるのは難しいのではないかと思います。だから、日本人の生徒たちからも反応や質問をうまく引き出すにはどうしたら良いのか研究していきたいと思います。また、今回冬のモンゴルを経験してみて、やっぱり夏に見られる大草原を体験してみたいという思いが強くなりました。ぜひまた機会を見つけて、夏のモンゴルに行きたいです。

6 現地での活動写真

劇の練習 (高専1年生)



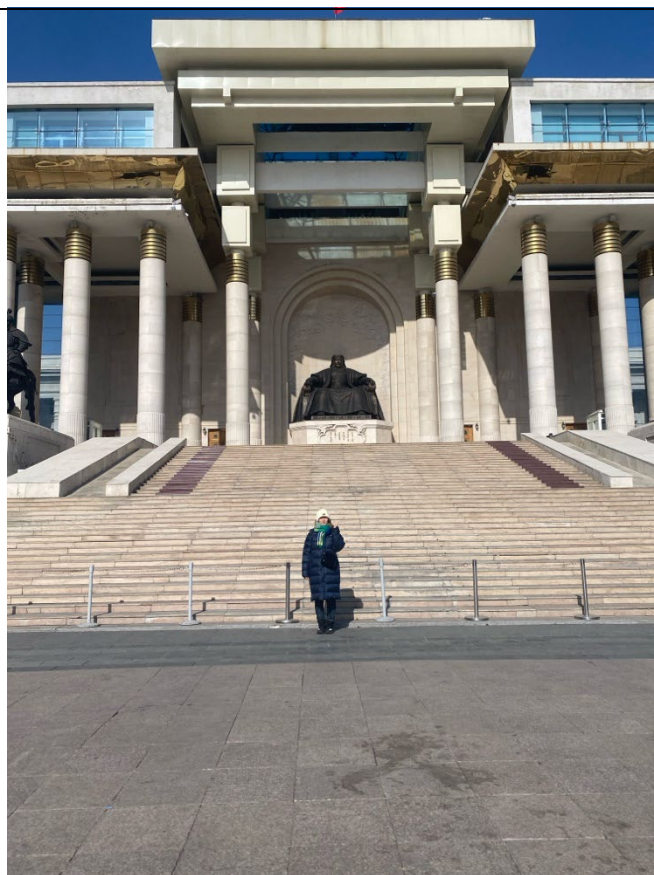
日本語祭りの書道体験 (高専)





【学生大使 実施報告書】

チンギスハーン広場（ホストファミリーと観光）



国立近代美術館（高専の学生と観光）

